

### 1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075000143
法人名	社会福祉法人 福祉松快園
事業所名	松快園グループホームやすらぎの里
所在地	福岡県遠賀郡水巻町吉田南2丁目9-1 (電話) 093-201-4822

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	平成20年5月15日
評価確定日	20年 7月 4日

【情報提供票より】 (平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 8月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	8 人 常勤 6人 非常勤 2人 常勤換算 6.24人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	5 階建ての ~ 4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	48,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有(300,000 円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,550 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	79 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉田中央クリニック、八幡厚生病院、正和中央病院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は2市1町の境界に位置した緑に囲まれた小高い丘の上であり、周りが見渡せる眺めの良い場所にある。敷地内には小さな神社や噴水、桜並木があり、四季が体感出来るのどかな環境である。クリニック、特別養護老人ホーム、老人保健施設、ケアハウス、デイサービスなどを併設する複合的な施設の鉄筋5階建ての4階部分にあり、眺望の良いガラス張りの作りである。法人および事業所は職員育成に積極的に取り組んでおり、研修・育成の体制が整っている。また地域との交流も盛んであり、地域に密着した活動に積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価の内容については運営推進会議で報告を行っている。前回評価の課題である「終末期ケア」については、管理者及び職員で検討を行い、改善計画を立案し、課題の改善に向けて取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は自己評価の実施にあたり、職員全員から意見を聴取し集約している。</p>
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	<p>定期的に運営推進会議を開催しており、現状報告や外部評価等の報告を行っている。行事等への家族ボランティア参加等の意見を運営に反映させるなど、会議で出された意見や要望をサービス向上に活かしている。</p>
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	<p>家族等が直接事業所に対して意見・不満等を表しやすいよう、家族会等を開き、機会づくりを行っている。また第三者相談窓口について利用契約時に説明・明示を行っている。</p>
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	<p>町内会に加入し、会議や廃品回収、草取り、運動会等の地域行事への参加を積極的に行っている。また地域のボランティアグループを受け入れたり、近隣の幼稚園、小中学校と、体験学習の受入れ、学校の運動会・文化祭等へ参加等の交流を積極的に行っている。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型の視点を加えた事業所独自の理念が作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、朝礼時や毎月の勉強会の際に、理念についての具体的な取り組みについて、全員で考え理解を深める努力をしている。		
<b>2. 地域との支え合い</b>					
3	5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、会議や廃品回収、草取り、運動会等の地域行事への参加を積極的に行っている。また地域のボランティアグループを受け入れたり、近隣の幼稚園、小中学校と体験学習の受け入れ、学校の運動会・文化祭等へ参加等の交流を積極的に行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は、「終末期ケア」等の前回評価の改善課題について検討を行い、改善計画を立案のうえ、改善に向けて取り組んでいる。また、自己評価実施にあたり、全職員から意見を聴取し集約している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催しており、現状報告や外部評価等の報告を行っている。行事等への家族ボランティア参加等の意見を運営に反映させるなど、会議で出された意見や要望をサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護認定の更新手続きを行ったり、必要なパンフレット等情報を提供して貰う他、行政担当者と連携を図り、介護相談に応じている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は利用契約時および家族会で、利用者・家族等へ制度説明の機会を設けている。また職員は、内部研修で制度について学ぶ機会があり、全職員へ周知・理解がされるよう伝達研修が行なわれている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
8	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、利用者個々の暮らしぶり等がわかる写真入りの個別の事業所便りを送付・手渡ししている。また金銭管理についても毎月1回、金銭出納帳等を明示し家族等へ確認してもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱・家族会を設置し、家族等が直接事業所に対して意見・不満等を表しやすいよう、雰囲気づくり、機会づくりを行っている。「家族も利用者の生活を支援すること」を目標に、行事等への家族ボランティアが参加する等、家族の意見を運営に反映させている。第三者相談窓口を明示し、利用契約時に説明を行っている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の離職を最小限に抑えるため、職員から個別に話を聴いたりするなど、コミュニケーションを図るよう努力している。また、託児所を法人内に設置するなど配慮している。職員が代わる場合は、利用者顔馴染みの関係づくりができるよう引継ぎ期間を十分に設けている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用選考において、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。また、法人代表者は経験に応じた教育訓練が受けられるよう体制づくりを図っており、職員個人の資格取得への協力も行っている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>法人代表者は人権教育についてその重要性を認識している。一部職員が外部研修に参加、他の職員へは研修資料をもとに勉強会を開いたり、伝達研修をして理解を深めている。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体で計画的に職員教育の体制が出来上がっており、キャリアに応じた教育訓練が受けられる仕組みや日常的に学ぶことができる機会が確保されている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福岡県グループホーム協会に加入しており、地区研修会に管理者及び職員が参加している。また研修会を通じて県内他事業所との交流を図り、サービスの質の向上のために情報交換等を行っている。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に、見学や、病院や施設等へ訪問を行なっている。また、慣れるまでは家族に頻繁に来てもらうなど、家族や担当ケアマネジャーと相談しながら工夫している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は料理やおやつ作りを共に行い、利用者の手縫いの裁縫や茶道作法などを支援しながら、教えられ学ぶことがある。利用者も役割を担い、夜勤職員の体調を気遣うなど、共に過ごし支える関係を築いている。</p>		
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、利用者の言葉・表情・行動から、利用者の思いや意向を把握し、意思疎通が困難な利用者には家族からの情報や職員が真意を推し測り、利用者本位に検討している。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、個別具体的な計画を作成している。担当者会議には毎回家族も参加しており、利用者・家族の希望及び職員の気づきを採り入れている。介護計画は、家族へ説明を行い家族が同意した署名・押印がある。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは3ヶ月に1回実施している。また、本人の状態変化に合わせて随時見直しも行い、現状に即した計画を作成している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者が入院時には、家族に同行し医師と面接のうえ連携を図り早期退院へ向けて取り組み、職員と利用者がお見舞いに行くようにしている。職員は協力医療機関への通院や送迎等必要な支援を行っている。</p>		



項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用時に、かかりつけ医について本人・家族の希望に添うよう話し合い、受診は家族が付き添い、緊急性があれば職員が同行している。かかりつけ医と事業所の協力医療機関の連携により、適切な医療が受けられるように支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用時に、重度化した場合や終末期に向けた事業所の方針について説明を行っており、職員も方針を共有している。利用開始後は、利用者の状態変化等に応じて、利用者・家族、かかりつけ医、職員等と話し合いを行って全員で合意を図るようにしている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように、言葉かけや対応に配慮している。特に、接遇や個人情報の取り扱いについては定期的に研修を実施し、職員の意識向上を図っている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者はフロアで過ごすことが多いが、身体状態に合わせて散歩や買物支援、居室で過ごしたい利用者には見守りを行うなど、利用者一人ひとりの「その日」したいことを把握して、希望に添って支援している。		
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事業所では主に、副菜とおやつ作りをしている。利用者と職員と一緒に食事の準備や片づけをし、職員は介助や見守りをしながら、同じテーブルで利用者と同じものを楽しく食べている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は毎日実施し、時間帯も柔軟に対応している。入浴拒否の利用者には、言葉かけ、タイミング、誘導など上手に行い、無理強いせずに入浴を楽しめるように支援している。また、日曜日には見晴らしの良い併設ケアハウスの大浴場入浴も実施している。</p>		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者の生活歴や興味を活かし、役割や楽しみごとを支援している。また、利用者の個性や特技を把握し、洋裁、お茶、調理、干し柿・梅干・らっきょう漬け等、出来そうなことは準備し、自発的に行えるよう援助している。</p>		
28	63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者の状況や希望また天候等にあわせ、毎日数回の散歩、月2～3回の買物やドライブ、月1回の外食等、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中、玄関・居室・ベランダ等に施錠はなく、基本的に法人の広い敷地内を自由に外出することができる。職員はセンサーに頼らず、利用者の外出傾向を把握し、見守りや付き添いを行っている。</p>		
30	73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害時のマニュアルを作成している。消防署、地域住民の協力・参加を得て、法人との総合避難訓練を2回、自主訓練を1回行っている。非常食、飲料水の備蓄、備品等を準備している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量および水分の摂取量の記録が全利用者分ある。献立は管理栄養士が立てており、体調に合わせた食事を提供している。月3回程度は、利用者の嗜好や希望を採り入れ、事業所独自の献立を利用者と職員で考え、一緒に買物に行き、調理を行っている。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共有空間は明るく清潔感があり、不快な音や光は感じられない。見晴らしの良い居間・食堂には季節を感じさせる品や利用者の作品、生花が飾られている。和室には茶器が置かれ、利用者がお茶を点て全員が楽しむなど、居心地の良い空間となっている。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には馴染みの机、化粧台、身の回りの小物等があり、手作りの人形や家族の写真が飾られている。利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		

※  は、重点項目。